

# いけぶち佐知子は提案します！

## 現状 大災害発生 行政はすぐに動けない

水も飲めない状態での生存リミットは72時間。  
阪神淡路大震災で助かった人の大半がご近所による救助。  
現在、吹田市内34連合自治会の中で自主防災組織を作っているのは17(組織率50%)。  
市内住宅全体の約7割が共同住宅

地域の命は  
地域で守る

## いけぶち提案 地域防災組織の 組織率アップ！

- ◎学校教育・地域のイベントで、ゲームを楽しみながら防災トレーニングを  
→**防災意識の向上**
- ◎連合自治会のような広い範囲よりも、まずは顔の見える範囲のコミュニティでの防災組織結成を誘導、実現  
→自主防災組織立ち上げ期の相談、補助などサポート強化  
**集合住宅での組織化がポイント！**

## 現状 深刻化する就職難

ハローワークや民間の就職斡旋業者に登録しても、職に就けない。  
定年を迎えても再任用や嘱託で働き続けられる公務員。  
吹田市2010年度末の退職者は187人、そのうち72人が再任用、9人が非常勤職員、11人が外郭団体に採用。



働きたい人が  
働けるまち

## いけぶち提案 働き口の確保！

- ◎吹田市のアルバイト職員、非常勤職員は『市報すいた』で広報し、公募。(いけぶちが市議会で提案し実現しました)  
退職者のあて職の場となっている仕事についても、広く市民からの公募に！
- ◎インターンシップ(職業体験)制度を活用し、未就労者の職業教育・スキルアップ→市職員にも強い刺激

## 現状 もっと身近に利用できる 施設がほしい

子どもも高齢者も、歩いていける範囲に広場やサロンがほしい。  
子育て中の方は子育て経験や知恵のサポートがほしく、高齢者は人の役に立っているという生きがいを求めている。



支え合いの  
地域福祉

## いけぶち提案 身近なところに 場所確保！

- ◎歩いていける身近な場所を高齢者と若い世代の交流サロンに！  
**場所確保へのサポート**  
空き家等バンク制度の登録促進  
固定資産税減免による誘導
- ◎地域福祉の市民団体への助成は地域通貨で  
→**地域の商業活性化**

## 現状 休日急病診療所 どうする？建物老朽化

休日急病診療所の平均年間受診者数は2007～2009年度、約5,200人  
吹田市民病院の時間外救急の平均年間患者数は2007～2009年度、約20,700人。  
休日急病診療所と吹田市民病院が初期救急の大半を受け持っているといえる。

初期救急医療  
の維持

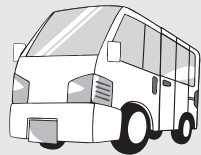
## いけぶち提案 市北部と南部に 総合病院併設型を

- もしも、休日急病診療所が閉鎖されると、たちまち市北部の初期救急患者の行き場所がなくなる。  
→市の北部(例えば済生会千里病院)と南部(例えば市民病院)に併設型休日急病診療所を設置すれば、緊急時の医師確保も緊急入院も可能に！



## 現状 市内に駅がたくさん でも、交通不便地域がある

公共交通不便地域にコミュニティバスを走らせることは、すでに政策決定。  
千里丘地区では今年4月からコミュニティバスが本格運行。  
しかし、もう一つの不便地区、千里山地区では、まだ運行のための調査や市民を交えた検討会議も開かれていない。



移動に便利な  
まちづくり

## いけぶち提案 コミュニティバス運行で 交通不便地ゼロ！

- ◎福祉巡回バスをムダに走らせないため、ルートの再検討
- ◎コミュニティバスでお試し走行→道幅の確認、安全な停留所の調査
- ◎福祉目的と運賃(自己負担)を市民参加で検討し黒字経営化  
→税金を払っている当事者(市民)の入った場で、利便性と個人負担の割合の議論を！

## 現状 議会傍聴者が少ない 市民の関心が低い

議会開催時の傍聴者はチラホラ・・・平日の昼間に傍聴に来ることができる人は限られている。  
議員定数や議員報酬の削減を求める市民の声がある・・・議員がどんな仕事をしているか見えない。

見える  
参加する議会

## いけぶち提案 市民と議会をもっと 近づけよう！ 議会予算の削減

- ◎議会報告会を議会として行う。
- ◎学芸会のような議会ではなく、傍聴したくなるような議会
- ◎活発な議論をする。
- ◎議案に対する議員ごと賛否を公表する。
- ◎議員期末手当の役職加算なし！
- ◎議員の審議会委員報酬はゼロ！